

起点を示す格助詞「を」と「から」の使い分け

杉村 泰

1. はじめに

例(1)に示すように、格助詞「を」と「から」はともに動作の起点を標示する。

- (1) a. 船が港を離れる。
- b. 船が港から離れる。

本稿ではこのような「を」と「から」の使い分けについて、日本語母語話者へのアンケート調査によって実証的に分析する。また、上級日本語学習者の習得状況に関しても、アンケートによって実態を見る。

2. 先行研究

三宅(1995,1996)は起点を標示する「を」と「から」の使い分けについて、文法的制約と運用論的制約のあることを指摘した。((2)~(9)は三宅 1995 の例文)

文法的制約

・物理的な移動を表す場合はヲ格もカラ格も使えるが、抽象的な移動を表す場合はカラ格を使うことはできない

- (2) 車で、太郎は大学{を/から}出た。
- (3) 去年、太郎は大学{を/*から}出た。

・意志的にコントロールされない移動の場合は、ヲ格を使うことはできない

- (4) 太郎が部屋{を/から}出た。
- (5) 煙が煙突{*を/から}出た。

杉村 泰

・着点をも同時に含意する場合は、ヲ格を使うことはできない

- (6) 太郎が部屋{を/から}出た。
- (7) 太郎が部屋{*を/から}庭に出た。

運用論的制約

・起点に特別の焦点がある場合は、カラ格が適切である

- (8) ひかり号は何番線から発車しますか？
- (9) ? ひかり号は何番線を発車しますか？

このような事実のあることから、三宅(1995)は次のように論じている。

「これはおそらくヲ格、カラ格の持つ格としての性格によるものと思われる。カラ格は、意味役割[起点]とほぼ直接、対応している格である。その点で内在格あるいは意味格と呼ばれるものである。これに対し、ヲ格は、意味的には空虚であると言え、意味役割[起点]と直接、対応しているわけではない。いわゆる構造格あるいは文法格と呼ばれるものである。したがって、特に起点を強調したい場合に、カラ格が選択されるということは、ごく自然なことと思われる」(三宅 1995:71)

ヲ格が意味的に空虚であるという表現は気になるが、確かに三宅の言うとおりに、「から」は意味役割(起点)を表すため、特に起点を強調したい場合は「から」が選択されるのであろう。しかし、三宅の指摘した制約だけでは、(10)や(11)のような場合になぜ「から」が使えないのか説明できない。(10)と(11)はいずれも家や大学という物理的な場所からの移動であるため、「から」を使ってもよさそうである。しかし、普通は「を」を使うのが自然である。

- (10) 私は毎日7時に家{を/*から}出る。
- (11) 彼女は大学{を/?から}出て、まっすぐ家に帰った。

したがって、物理的移動を表す場合、「から」が使われやすい場合のみでなく、「を」が使われやすい場合の説明もしておく必要がある。

格助詞「を」について、楠本(2002)は単なる文法格ではなく、「支配性」を表す意味的なものとして説明している。((12)~(14)は楠本 2002 の例文)

- (12) 太郎を殴った(力学的な支配力)
- (13) 良き友を持つ(心理的支配力)
- (14) 山に登る角を曲がる(主体の行為が行われる領域として一種の占有意識が働く)

このように捉えると、いわゆる動作の対象を標示する「を」と動作の起点を標示する「を」を統一的に説明することが可能となる。

「このような「支配性」は「を」格文に共通して見られる現象であり、それ故「を」格に対するスキーマ的要素を含むものと考えられる」(楠本 2002:8)

こうして楠本(2002)は、「家を出る」、「大学を卒業する」、「席を立つ」等いわゆる動作の起点を標示する表現について、次のように説明した。

「これらの「を」格文は主体が属していたものからの離脱を表し、さらに「私ごと」の延長として離脱する目的が暗示される(例えば、「家を出て会社へ行く」等)というように学習者に教えるならば、「を」格の存在が理解出来、正しい使い方が出来るようになるであろう」(楠本 2002:10)

本稿では楠本(2002)の指摘したとおり、いわゆる動作の起点を表す「を」と動作の対象を表す「を」は、ともに広い意味で「支配性」を標示するものであると考える。その上で、いわゆる動作の起点を表す「を」と「から」について、母語話者がいかなる基準で使い分けしているのかを明らかにしていきたい。

3. アンケート調査

本稿では日本語母語話者および上級日本語学習者を対象に、いわゆる動作の起点を標示する「を」と「から」の使い分けについてアンケート調査した。被験者は次のとおりである。

- ・日本語母語話者
名古屋大学1年生 58人
(2004年11月18日、名古屋大学で実施)

杉村 泰

・上級日本語学習者

- 北京第二外国語学院日語系4年生 50 人
(2004年11月24日、北京・北京第二外国語学院で実施)
上海外国語大学日本文化経済学院4年生 50 人
(2004年11月29日、上海・上海外国語大学で実施)
東呉大学日本語文学系4年生 49 人
(2004年11月30日、12月2日、24日、台北・東呉大学で実施)

アンケート項目は次のとおりである。

質問次の文の()に格助詞「を」、「から」のうち正しいと思う方を一つ入れて下さい。

1. 私は毎日7時に家()出る。
2. 彼はアメリカの有名大学()出た。
3. 先生がいたずらをしている学生に、「教室()出なさい」と言った。
4. 彼女は家()出て一人暮らしを始めた。
5. 彼は学歴詐称が見つかって、大学()出るようになった。
6. 彼女は大学()出て、まっすぐ家に帰った。
7. 母は夕食の支度をするために4時にデパート()出た。
8. 警察が犯人に、「そのビル()出ろ」と言った。
9. 犯人は逃げる時、裏口()出てきた。
10. 彼はヤクザの〇〇組()出る決心をした。
11. 彼は刑務所()出て、すぐに捕まった。
12. 地震でつぶれたビル()出た。
13. 彼女は裏門()出て、すぐに車にはねられた。
14. 夫が知らない女の家()出てきたのを見た。

アンケートの結果は表1のとおりである。表1は日本語母語話者が「を」を選択した割合の高い項目から順に並べてある。

表 アンケート結果

名大		右3校平均		北京		上海		台北	
を	から	を	から	を	から	を	から	を	から

起点を示す格助詞「を」と「から」の使い分け

1. 私は毎日7時に家()出る。									
100.0%	0.0%	72.5%	27.5%	86.0%	14.0%	56.0%	44.0%	75.5%	24.5%
2. 彼はアメリカの有名大学()出た。									
100.0%	0.0%	46.3%	53.7%	28.0%	72.0%	70.0%	30.0%	40.8%	59.2%
7. 母は夕食の支度をするために4時にデパート()出た。									
89.7%	10.3%	67.4%	32.6%	78.0%	22.0%	54.0%	46.0%	70.4%	29.6%
6. 彼女は大学()出て、まっすぐ家に帰った。									
87.9%	12.1%	53.7%	46.3%	68.0%	32.0%	38.0%	62.0%	55.1%	44.9%
4. 彼女は家()出て一人暮らしを始めた。									
86.2%	13.8%	63.1%	36.9%	58.0%	42.0%	60.0%	40.0%	71.4%	28.6%
10. 彼はヤクザの〇〇組()出る決心をした。									
84.5%	15.5%	58.4%	41.6%	58.0%	42.0%	60.0%	40.0%	57.1%	42.9%
5. 彼は学歴詐称が見つかって、大学()出るようになった。									
67.2%	32.8%	56.0%	44.0%	46.0%	54.0%	59.0%	41.0%	63.3%	36.7%
11. 彼は刑務所()出て、すぐに捕まった。									
65.5%	34.5%	47.7%	52.3%	46.0%	54.0%	44.0%	56.0%	53.1%	46.9%
13. 彼女は裏門()出て、すぐに車にはねられた。									
44.8%	55.2%	37.6%	62.4%	32.0%	68.0%	36.0%	64.0%	44.9%	55.1%
12. 地震でつぶれたビル()出た。									
12.1%	87.9%	30.9%	69.1%	34.0%	66.0%	32.0%	68.0%	26.5%	73.5%
3. 先生がいたずらをしている学生に、「教室()出なさい」と言った。									
8.6%	91.4%	59.4%	40.6%	56.0%	44.0%	60.0%	40.0%	62.2%	37.8%
8. 警察が犯人に、「そのビル()出ろ」と言った。									
8.6%	91.4%	24.8%	75.2%	28.0%	72.0%	22.0%	78.0%	24.5%	75.5%
9. 犯人は逃げる時、裏口()出てきた。									
8.6%	91.4%	24.8%	75.2%	18.0%	82.0%	26.0%	74.0%	30.6%	69.4%
14. 夫が知らない女の家()出てきたのを見た。									
6.9%	93.1%	26.8%	73.2%	26.0%	74.0%	22.0%	78.0%	32.7%	67.3%

注：項目3、7は東呉大学で1人ずつ未回答。項目5は上海外国語大学で1人未回答。未回答は1人当たり0.5人として計算した

4. 母語話者の「を」と「から」の使い分け

アンケート調査の結果、日本語母語話者は「を」と「から」について、一定の使い分けをしていることが明らかとなった。まず、1と14の文に注目してみたい。両者はいずれも主体が家の外へ出ることを表すという点で共通している。しかし、1は「を」を選択した人が100.0パーセント、14は「から」を選択した人が93.1パーセントであるように、日本語母語話者は「を」と「から」を何らかの基準で使い分けられていると考えられる。

1. 私は毎日7時に家()出る。(を:100.0%、から:0.0%)¹
14. 夫が知らない女の家()出てきたのを見た。(を:6.9%、から:93.1%)

同様に6と9の文を比較すると、6は「を」を選択した人が87.9パーセント、9は「から」を選択した人が91.4パーセントというように、「を」と「から」を使い分けられている。7と12も同様である。

6. 彼女は大学()出て、まっすぐ家に帰った。(を:87.9%、から:12.1%)
9. 犯人は逃げる時、裏口()出てきた。(を:8.6%、から:91.4%)
7. 母は夕食の支度をするために4時にデパート()出た。
(を:89.7%、から:10.3%)
12. 地震でつぶれたビル()出た。(を:12.1%、から:87.9%)

これらの文を見て気づくのは、「から」の選択率が高い14、9、12は、主体がA地点からB地点へと移動することに話の重点があるのに対し、「を」の選択率が高い1、6、7は、そこでの活動を終えてその場を離れることに話の重点があるということである。

すなわち、14、9、12は主体が「女の家」、「裏口」、「ビル」から外に出たという点に話の重点があり、そこでの活動を終えるということには重きが置かれない。もちろん14の文も、夫が知らない女の家に行き、そこでいろいろなことがあって、朝家から出てくるのを私立探偵が見張っているような場面では「夫が女の家を出たぞ」と言えるが、その場合

¹ 1の表現で「を」が使われることはコーパス調査からも伺われる。本稿ではインターネットのホームページをコーパスとして、検索エンジン goo (<http://www.goo.ne.jp/>) によってヒット数を調べた。その結果、「～時に家を出る」が1,490件ヒットしたのに対し、「～時に家から出る」は3件しかヒットしなかった。同様に「～時に会社を出る」が247件ヒットしたのに対し、「～時に会社から出る」は1件しかヒットしなかった。(2005.07.18実施。「出る」は辞書形のみ調査した)

は1の文と同じことになる。

一方、1、6、7は「家」で朝食をとったり歯を磨くなどの家庭生活を終えたり、「大学」で勉強したりサークル活動をするなどの学校生活を終えたり、「デパート」で買い物をする等の活動を終え、結果的に次の活動に入ることを暗示する。この点で「～を出す」は「～を辞める」に近い意味を表すと考えられる。

(15) 彼は会社{を/*から}辞めた。

したがって、2や4のように「卒業する」、「家出する」という意味で使われる「出る」は、単に大学や家から外に出るのではなく、それまでの学業や家庭生活に終止符を打つという意味で「を」が使われると考えられる。この点で英語の“graduate from school”や“run away from home”が“from”(から)を使うのとは対照的である。

2. 彼はアメリカの有名大学()出た。(を:100.0%、から:0.0%)

4. 彼女は家()出て一人暮らしを始めた。(を:86.2%、から:13.8%)

同様に10のように組織を抜けるときにも「を」の選択される割合が高くなる。10の場合、決して「から」が使えないわけではないが、主体がその組織に対して意志を持って脱出を図るような場合には「を」の方が選択されやすくなる。一方、5のように主体の意志性が高くない場合には「を」の選択される割合は低くなる。

10. 彼はヤクザの〇〇組()出る決心をした。(を:84.5%、から:15.5%)

5. 彼は学歴詐称が見つかって、大学()出るようになった。

(を:67.2%、から:32.8%)

さらに3や8のように主体の意志性が低く、他者からの命令によって移動する場合には、「から」の選択される割合が高くなる。

3. 先生がいたずらをしている学生に、「教室()出なさい」と言った。

(を:8.6%、から:91.4%)

8. 警察が犯人に、「そのビル()出ろ」と言った。(を:8.6%、から:91.4%)

以上のように見てくると、いわゆる起点を標示する「を」も、その「起点」に対してそこからの離脱を働きかけるという点で、他動詞文の「を」と同列に考えられることが分かる。したがって、11と13を比較すると、11の方が刑務所から離脱するイメージが強くなるため

杉村 泰

「を」の選択される割合が高くなると考えられる。

11. 彼は刑務所()出て、すぐに捕まった。(を:65.5%、から:34.5%)
13. 彼女は裏門()出て、すぐに車にはねられた。(を:44.8%、から:55.2%)

例えば、(16)~(18)の場合、「を」も「から」もともに使うことができる。しかし、「から」を使った場合は、単に主体が煙突や港や担当から外に出ることを表すにすぎないのに対し、「を」を使った場合は、主体が外に出るために煙突内を動いたり、これまでの陸上生活に別れを告げ港を後にしたり、主体が自らの意志で担当を辞める等、主体がヲ格で表される「場所」に対して何らかの働きかけをして、その所属から離れるイメージとなる。

- (16) 太郎が煙突{を/から}出る。
- (17) 船が港{を/から}離れる。
- (18) 花子は担当{を/から}外れた。

したがって、次の(19)、(20)のように文脈を整えると、同じ物理的移動を表す場合でも、「を」と「から」のどちらか一方が使われやすくなる。(19)は、長いトンネルからやっと抜けるという場面であり、それまでのトンネル内の「生活」に別れを告げるという意味が込められるため、「を」の方が適切となる。一方、(20)は家から外への移動に重点が当たるため「から」の方が適切となる。

- (19) 国境の長いトンネル{を/?から}抜けると雪国であった。(川端康成『雪国』)
- (20) 台風の際は家{?を/から}出るな。地震の際は家{?を/から}出る。
(http://blogs.dion.ne.jp/usawant_you/archives/2004-10.html)

以上のことから、本稿ではいわゆる起点を示す格助詞と言っても、「から」が第一義的に〈起点〉を標示するのに対し、「を」は広い意味で〈働きかけの対象〉を標示するものであることを主張する。

5. 学習者の誤用

次に学習者の誤用について見る。次の1、2、6は日本語母語話者のほとんどが「を」を選択したものである(括弧内の数字は「を」を選んだ人の割合を示す)。しかし、学習者

起点を示す格助詞「を」と「から」の使い分け

は母語話者に比べ、「を」を選んだ人の割合が低い。しかも、それぞれの項目で大学間の格差が大きく開いていることに気づく。

1. 私は毎日7時に家を出る。
(母語話者 100.0% 北京 86.0% 上海 56.0% 台北 75.5%)
2. 彼はアメリカの有名大学を出た。
(母語話者 100.0% 北京 28.0% 上海 70.0% 台北 40.8%)
6. 彼女は大学を出て、まっすぐ家に帰った。
(母語話者 87.9% 北京 68.0% 上海 38.0% 台北 55.1%)

本稿でアンケート調査を行った北京、上海、台北の3校は、いずれも日本語教育が盛んな大学で、全国的に優れた成績を収めていることで知られている。各大学の先生に聞いたところ、これらの項目は1年生の初級日本語で教えているはずであるということであった。しかし、なぜ「を」を使うのかというところまでは教えておらず、そのまま覚えさせているようであった。各項目とも3校でばらばらの成績となっていることから、母語である中国語の影響は考えにくく、1年生で習ったことをそのまま暗記しているかどうかの結果に反映していると考えられる。したがって、教えるに当たってはいかに暗記させるかが重要となる。その場合、ただ丸暗記させるよりは、なぜ「を」が使われるのかを教えた方が、学習者にとって理解の助けになると思われる。上の1、2、6のような場合、そこでの活動を一段落させ、次のステップへと移るイメージがある。したがって、このような場合、日本語では単なる〈起点〉を標示する「から」ではなく、〈働きかけの対象〉を標示する「を」が使われると説明できる。

一方、次の3と8において、学習者は興味深い選択の違いを見せている。3と8はいずれも母語話者の91.4パーセントが「から」を選択している(括弧内の数字は「から」を選んだ人の割合を示す)。しかし、学習者の場合、8の文では3校とも75パーセント前後の人が「から」を選択しているのに対し、3の文では3校とも40パーセント前後の人しか「から」を選択していない。したがって、3と8には学習者の習得のしやすさにおいて、何らかの違いのあることが伺われる。

3. 先生がいたずらをしている学生に、「教室から出なさい」と言った。
(母語話者 91.4% 北京 44.0% 上海 40.0% 台北 37.8%)
8. 警察が犯人に、「そのビルから出ろ」と言った。

(母語話者 91.4% 北京 72.0% 上海 78.0% 台北 75.5%)

ここで気づくのは、3と8では命令する人(先生、警察)と命令されて移動する人(学生、犯人)の位置関係に違いのあることである。3は先生と学生が同じ領域(教室)におり、そこから「出て行け」と言っているのであり、8は警察と犯人が別の領域(ビルの内外)におり、外から「出て来い」と言っているのである。上の数字の差はこの視点の違いが関係すると思われる。今後、この点について分析していきたいと思う。

6. まとめ

本稿ではいわゆる起点を示す格助詞「を」と「から」の使い分けについて、アンケート調査により実証的に分析した。その結果、「から」が第一義的に〈起点〉を標示するのに対し、「を」は広い意味で〈働きかけの対象〉を標示するものであることを主張した。すなわち、A地点からB地点への移動に重点がある場合は「から」が選択され、そこでの活動に終止符を打つことに重点がある場合は「を」が選択される傾向のあることを明らかにした。

参考文献

- 楠本徹也(2002) 「「を」格における他動性のスキーマ」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』28, 東京外国語大学留学生日本語教育センター, pp.1-12
- 三宅知宏(1995) 「ヲとカラ—起点の格標示—」宮島達夫・仁田義雄(編)『日本語類義表現の文法(上)単文編』, くろしお出版, pp.67-73
- (1996) 「日本語の移動動詞の対格標示について」『言語研究』110, 日本言語学会, pp.143-165